

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	縁ラシユレ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日 ~ 令和8年 1月 26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日 ~ 令和8年 1月 26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	調理活動や外食レクレーションで食べることに興味を持ってもらい、食の幅を広げていく食育に力をいれています。	調理活動の買い物では、食材を考え選ぶ。 調理の過程で食材に触れ、香りを嗅ぎ食に興味を持ち、食の幅を広げていけるようにしています。	外国籍の児童が多いことから、禁食に留意し異国のメニューや食の交流を行っていきます。
2	1人1人の発達のペースを尊重し、「できた！」を積み重ねる支援を大切にしています。	遊びや活動の中で成功しやすい環境設定を行い、肯定的な声かけを通して自己肯定感を育む支援を行っています。	活動の難易度や手順を細分化して、児童が「できた！」と感じやすい場面を意図的に設定して成功体験を積み重ねていきます。
3	外国籍児童を受け入れとインクルーシブな療育を行っています。	活動内容を複数用意し、参加の仕方を選べるようにしています。 言葉以外の表現（動作・表情・絵）も大切にして可視化します。	翻訳ソフト等を活用して、共通で認識できるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい児への支援	きょうだい児支援を行う機会がなく検討したことがなかった。	利用開始時のアセスメントを細かく聞き取りしていき、きょうだい児の把握をして対応を検討をしていきます。
2	地域との交流機会が不足している。	保育園や幼稚園等の交流や地域の児童と活動する機会がありません。 仕事をされている保護者の方が多く、交流する機会が難しい状況です。	保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法等を検討していきます。
3			

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	縁ラシユレ				公表日 2026年1月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		児童発達支援や放課後等デイサービスが合同の際は車での別スペースに移動して分離している。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	配置人数は適切であるが、職員スキルに差があり負担のかかる職員がいる。	縁グループの研修や職員ミーティングで勉強会を行いスキルアップにつなげていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	自立型や塾には適しているが、鍵や段差等、適切とは言えないところがある。トイレ1か所、バリアフリー無しのため。	入口の鍵を数か所設けている。トイレについては定時誘導を行い、早めに行けるように工夫をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		適切な広さがあり、安全に工夫をしている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		緊急時は相談室、静養室を使用している。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		一部、難しい職員もいるが、おおむねできている。	職員ミーティングでPDCAサイクルを周知し、行っています。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		保護者との面談前に職員とのカンファレンスを行っている。 その他、送迎時に意見を聞き取り入れている。	気になることがある場合は、隨時共有をして検討をしています。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		療育中にも計画内容が実施できるように行っているが、全員に周知できていない。	支援計画の更新時に内容の共有をして、計画に沿った支援が行われるようにしていきます
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			

× 援 の 提 供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動プログラムは、職員全員で話し合いをして立案を行っています。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		外出先は、同じ場所と重ならないように工夫をしている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		朝のミーティングで、前日の振り返りを行い共有を行っている。 共有事項はノートに記録し、当日休みの職員も後日確認できるようにしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	2		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1		
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	一部できているが（保育園等）足りない面もあります。	障害福祉の関係者（相談支援員、子育て相談課等）と連携して支援を行っています。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		1		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	初年度のため、これからとなるが相談員を通じて行う予定です。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	保育園の送迎のみのため、地域交流の機会がない。	児童館や公園などで、地域の児童と関りが持てるようにしていきます。
家族 の 対 応 方 法	33 曜から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1		
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレン特レーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		緑グループ川口エリアでは保護者会を毎年開催しています。緑ランユレでは、夏祭りやスポーツ大会を行い、保護者の方やきょうだい同士の交流の機会を設けることができた。	今後も、イベント企画して保護者の方々やきょうだい同士の交流ができるようにしていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			